

いつもお世話になっております。
今月分の請求書を送付いたしますので、何卒ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。
金木犀の甘い香りが漂う季節になりました。みなさまはお元気でいらっしゃいますでしょうか。

旧暦10月・神無月を出雲地方では神在月と呼ぶというのは有名な話です。全国から八百万の神が出雲に集まり、様々な相談、特に人々の縁組の相談をされるそうです。出雲大社の主祭神である大国主命は、地上界を開拓し国造りをしたあと、天津神に国を譲り、幽世^{かくりよ}の神事を治めることになりました。幽世とは目に見えない世界という意味で、『ご縁というのは目に見えない世界で繋がれる』という考えから、幽世を主宰される大国主命が縁結びの神と考えられるようになったということです。

出雲大社は伊勢神宮と並ぶ日本の二大聖地。一度は行きたいと思いつつ、アクセスが不便でずっと気後れしていました。人間関係や仕事・引っ越し・お金のみならず、旅行先も「ご縁」なので、行ける時には行けるし、行けないときは行けないのだそうですが、ようやく私にもご縁が繋がりと、シルバーウィークを利用して出雲に行ってきました。

出雲大社を参拝し何処かで1泊する事以外は何も決めていませんでしたが、2日間で出雲大社 ⇒ 稲佐の浜 ⇒ 日御崎 ⇒ 松江城 ⇒ 境港 ⇒ 美保関 ⇒ 米子をめぐることができました。

(境港と米子はバスの乗換えをただけですが・・・)

美保神社は初めて聞く名前でしたが、夕食に訪れた松江の居酒屋で「神社に行くならどこがおすすめですか？」と尋ね、いくつか教えて頂いたうちのひとつでした。境港からコミュニティバスを乗り継いで辿りついた海辺の小さな集落には、なぜか旅館が密集しており、周辺の閑散とした様子からは想像できない立派な神社が美保神社でした。

今では寂れた雰囲気漂う美保関ですが、古来より日本海航路の要衝として栄え、港には多くの船が出入りし、たくさんの廻船問屋や船宿が軒を連ね、西日本一の歓楽街でもあったそうです。旅館が多いことや大きな神社があることも、かつての賑わいを想像すれば納得できました。島根では、出雲大社だけでは「片参り」で、美保神社にも参拝し「両参り」とする習わしがあるということからも、島根の人々にとって古くから重要な地であったことが伝わってきます。思いもしない場所にたどり着けたのも、大国主命に繋いでいただいたご縁。機会があればぜひもう一度行ってみたいと思います。

また、前日に行った日御崎では思いがけず「柱状節理」に出くわしました。鉱物に興味が無い方にとっては解せない話でしょうが、この旅で最もテンションが上がった瞬間でした。岩石との素敵なご縁もつながりました。(笑)

こうして毎月、面識もない私の他愛のない話にお付き合い頂いている事も、有難いご縁です。ありがとうございます！
季節の変わり目で寒暖の差が大きいです、風邪などひかれませぬ様、どうぞ自愛くださいませ。



出雲大社の境内は、空気の中にピリピリと電流が走っているような強いエネルギーが充満しており、想像以上の驚きでした。



美保神社

全国のえびす神社の総本社。



美保関漁港



日御崎の柱状節理